

微生物資材 腐植質土壌改良資材

●▲ ハイフミン[®] ハイフリッドG



**静菌作用
早期回復!**

**作物の
活力促進!**

**連作障害
軽減!**

● 内容と性状

性 状	粉粒状
pH	6.5前後
仮比重	0.7前後
有機物含量	30%以上(現物当り)

添加した微生物と菌数

トリコデルマ・ハルジアナムRH221株
現物1グラム当たり 1×10^7
バチルス属菌 (K016株・K031株)
現物1グラム当たり 1×10^7

※製品袋裏には全国土壌改良資材協議会「微生物資材部会の自主表示基準」による品質表示をしています。

供給 / ●▲ JAグループ



腐植が支える大地の恵み
製造 / 日本肥糧株式会社

15Kg(約21ℓ)
ポリ袋

・△ ハイフミン® ハイブリッドG

ハイフミンハイブリッドGは

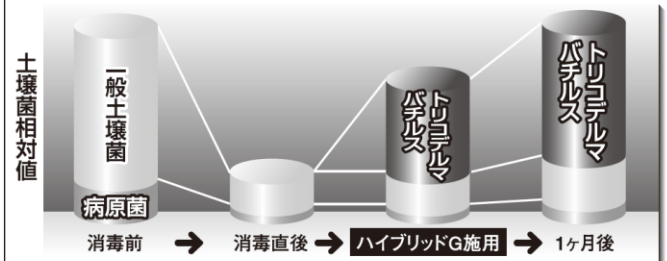
- ◆良質な天然腐植の効果が早くから遅くまで持続する地力増進法の指定土壌改良資材「ハイフミン特号」に有用微生物(トリコデルマ・ハルジアナムRH221株、バチルス属菌 KO16株・KO31株)を添加した新しいタイプの微生物資材の腐植質土壌改良資材です。
- ◆良質な腐植物質(腐植酸、フルボ酸等)が含まれていますので、根の活性を高め、根張りを良くし、高品質な作物づくりに役立ちます。
- ◆粉粒状なので、ライムソーや背負い式散布機などの機械散布が可能です。
(機械の種類によっては散布できない場合があります)

有用微生物の働きで

- 根の近くに有用菌が定着し、作物の活力が促進されます。
- 土壌・根圏の微生物相が多様化し、改善されますので病害の発生しにくい環境になり健全な作物生産が期待できます。
- 未熟有機物の分解能力が高く、植物残さ等の分解に役立ちます。
- 特に連作障害が発生しやすい作物にお勧めです。

土壌静菌作用の早期回復

土壌消毒前後の土壌の菌数(模式図)



※土壌消毒、ガス抜き後にハイフミンハイブリッドGを施用するとトリコデルマ菌、バチルス菌が増殖し、微生物相を改善します。

施用方法及び施用量

- ① 土壌消毒し、ガス抜きを十分にします。
- ② ハイフミンハイブリッドGを畦または全面に施用(150kg～300kg/10a)し、土壌と混和します。
- ③ 施用後播種又は定植します。

※土壌消毒のマルチ畦内処理等(ガス抜きをしない消毒)の場合は、消毒前に施用し、畦たてをしてください。

用 途	使 い 方	施用基準量(10a当たり)
露地 野菜・花卉類	土壌消毒・ガス抜き後に畑全面もしくは、畦・溝内に施用し、土壌と混和してください。土壌消毒のマルチ畦内処理の場合は畑の全層に施用し、畦たてをしてください。	150～225 kg (10～15袋)
施設 野菜・花卉類		225～300 kg (15～20袋)
茶 園	一番茶・二番茶摘採直後、台刈り直後、秋整枝直後に樹上から全面に散布 (園内に部分的に施用する場合)	150～225 kg (10～15袋) 1㎡当たり150～300 g
果 樹 園	成木の樹勢回復(溝施用・株元施用・タコツボ施用)	150～225 kg (10～15袋) 1樹当たり15 kg (1袋)
	新植・改植(植え穴施用)	植え穴(1樹)当たり3～5 kg

※基準施用量ですから、地域・土壌条件・樹齢等によって適宜増減してください。

保管・使用上の注意

- ★ハイフミンハイブリッドGは有用微生物を含んでいますので、保管は雨や直射日光を避け、高温(40℃以上)にならない場所を選んでください。
- ★土壌消毒後の施用が最も効果的ですが、マルチ畦内処理等の土壌消毒前でも施用できます。
- ★ハイフミンハイブリッドGの開封後は土と混合し、全量使い切ってください。(肥料と同時の施用もできます。)
- ★近くでキノコ類の原木栽培をしている場合は、資材が直接原木にかからないように施用してください。

お求めご相談は、皆様のJAへ!

腐植が支える大地の恵み

*「ハイフミン」は日本肥糧(株)の登録商標です。

日本肥糧株式会社

www.nihonhiryo.co.jp